

会社概要／株式の状況 (2021年6月30日現在)

設立 2010年12月8日（前身の協和油化(株)は1966年11月に設立）
 資本金 8,855百万円
 事業内容 各種石油化学製品の開発・製造・販売
 従業員数 820名（連結）

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,642	9.81
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,458	9.31
東ソー株式会社	1,852	4.99
TAIYO FUND, L.P.	1,456	3.92
SMB C日興証券株式会社	1,309	3.53
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505227	1,125	3.03
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	1,066	2.87
株式会社日本カストディ銀行(信託口9)	982	2.64
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE UKDU UCITS CLIENTS NON LENDING 10 PCT TREATY ACCOUNT	921	2.48
TAIYO HANEI FUND, L.P.	837	2.26

※持株比率は、表示単位未満を四捨五入しております。

役員

代表取締役社長 社長執行役員	高橋 理夫	取締役(独立・社外)	宮入 小夜子	執行役員	齋藤 誠司	執行役員	高橋 功
取締役 常務執行役員	松岡 俊博	取締役(独立・社外)	土屋 淳	執行役員	緒方 利明	執行役員	上村 朗
取締役 常務執行役員	新谷 竜郎	取締役(独立・社外)	菊池 祐司	執行役員	中橋 彰夫	執行役員	徳光 篤志
取締役 常務執行役員	瀧本 真矢	常勤監査役	大戸 徳男	執行役員	近藤 佳明	執行役員	佐藤 克典
取締役 執行役員	磯貝 幸宏	監査役(独立・社外)	河合 和宏	執行役員	清水 英樹		
		監査役(独立・社外)	田村 恵子				

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
配当基準日	期末配当金 12月31日 中間配当金 6月30日
株主名簿管理人／特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

株式事務に関するご案内

お取扱窓口	お取引の証券会社等。特別口座管理の場合は、特別口座管理機関のお取扱店。
特別口座管理機関お取扱店	みずほ証券及びみずほ信託銀行 フリーダイヤル 0120-288-324（土・日・祝日を除く9:00～17:00）
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行及びみずほ銀行（みずほ証券では取次のみとなります）

KH NeoChem KHネオケム株式会社

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-3-1
TEL 03-3510-3550

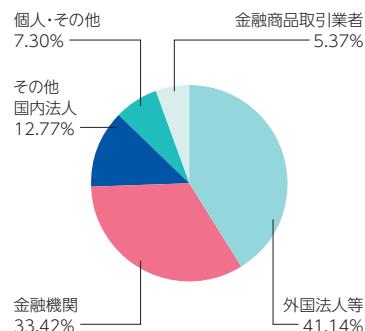
※本冊子に記載されている将来に関する記述は、現在までに入手可能な情報に基づく前提や予測等を含んでおり、当社として確約や保証を行うものではありません。これらの情報は、今後の様々なリスクや不確実な要素により大きく異なる結果となる可能性がありますことをご承知おきください。
 ※本冊子に記載の金額等は表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

UD
FONT

KH NeoChem

発行可能株式総数 136,200,000株
 発行済株式総数 37,149,400株
 株主総数 4,891名

所有者別株式分布状況



第12期 中間 株主通信

2021年1月1日～2021年6月30日

KHネオケム株式会社

証券コード 4189

トップメッセージ



新型コロナウイルス感染症により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、罹患された方々の一日も早い回復と感染の早期収束を心よりお祈り申し上げます。
また、株主の皆様には、日頃よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ここに第12期中間株主通信をお届けいたします。

代表取締役社長 **高橋理夫**

当社グループの2021年12月期第2四半期連結累計期間(2021年1月1日から2021年6月30日まで)における事業環境は、新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動抑制の動きが続いているものの、先進国を中心にワクチン接種が進む中で、各国の景気に持ち直しの動きが見られ、国内外ともに回復基調で推移しました。

このような状況の下、当社グループの主力製品は全ての事業分野で需要が大きく伸長し、国際需給がタイトに推移する中、販売価格の改定を進めてまいりました。その結果、当第2四半期累計の売上高は523億60百万円(前年同期比40.6%増)、営業利益は78億円(同226.5%増)、経常利益は80億65百万円(同233.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は56億42百万円(同233.2%増)となり、半期ベースの過去最高益を達成いたしました。

また、第3四半期以降も良好な事業環境が予想されることから、通期の業績予想につきましても、売上高は1,120億円(前期比44.8%増)、営業利益は155億円(同174.7%増)、経常利益は159億円(同182.6%増)、親会社株主に帰属する当

期純利益は110億円(同171.8%増)と上方修正し、年間でも過去最高益の更新を見込んでいます。また、1株当たり年間配当金(予想)も5円増配となる65円に修正いたしました。

当社は、「サステナブル経営」を推進し、事業を通じて「安心・安全・信頼」を基盤に、「環境に優しい社会」、「人々の豊かな暮らし」に貢献し、社会とともに持続的な成長を実現してまいります。

株主の皆様には、今後もより一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2021年9月

プライム市場を選択

当社は、取締役会において、株式会社東京証券取引所の新市場区分について、プライム市場の選択を決議いたしました。今後、2022年4月4日のプライム市場上場への移行に向けて必要な手続きを進めてまいります。

連結業績ハイライト

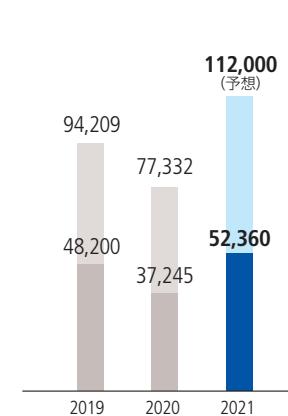
当第2四半期累計
連結業績

通期
連結業績予想

- 一部ではコロナ禍からの経済回復が進む中、需要の増加を着実に取り込むとともに販売価格の見直しも行い、営業利益が前年同期比約3.3倍となるなど、半期ベースで過去最高を更新
- 第3四半期以降も良好な事業環境が続くことが見込まれ通期予想を上方修正、過去最高益を大幅更新する見込み
- 期末配当金は1株当たり35円と5円増配、年間で65円に修正(中間配当金30円)

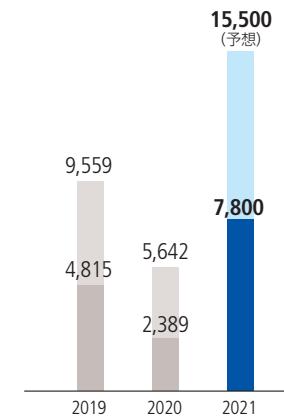
売上高 (百万円)

■ 第2四半期累計 ■ 通期



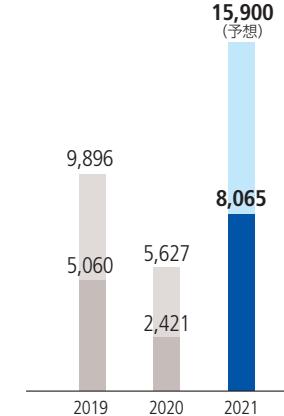
営業利益 (百万円)

■ 第2四半期累計 ■ 通期



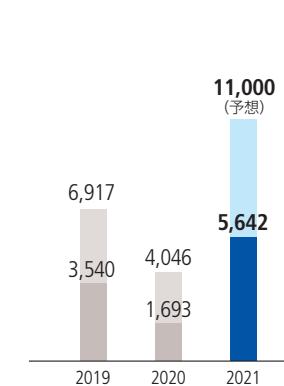
経常利益 (百万円)

■ 第2四半期累計 ■ 通期



親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)

■ 第2四半期累計 ■ 通期



配当金の状況

1株当たり中間配当金

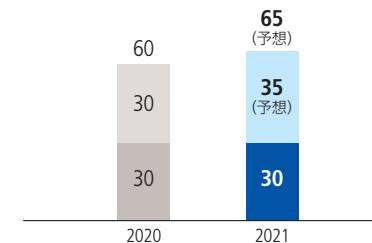
30円

1株当たり年間配当金(予想)

65円

1株当たり配当金 (円)

■ 中間 ■ 期末



当社は、内部留保と今後の成長投資へのバランスを勘案しつつ、継続的かつ安定的な配当を維持することを基本方針としております。

2021年の中間配当金につきましては、1株当たり30円とさせていただきます。

また、好調な業績を受けて期末配当金(予想)を1株当たり5円増配となる35円へ上方修正いたしました。この結果、1株当たりの年間配当金(予想)は65円(前期比5円増配)となります。



事業分野別情報^{※1} (2021年12月期 第2四半期累計(連結))

機能性材料

売上高

199億9百万円(前年同期比31.2%増)

営業利益

41億63百万円(前年同期比51.1%増)

当社の冷凍機油原料は、環境に優しいエアコンに使用される潤滑油の原料として、地球温暖化抑制に貢献しています。化粧品原料は、高級スキンケア化粧品等に利用されており、世界中の人々のQuality of Life (QOL) 向上に役立っています。

当期の業績は、前年度後半から需要回復傾向にあった冷凍機油原料が、当期を通じて好調な需要が継続し、また、化粧品原料も、インパウンド需要の低迷は続いているものの一部の海外向け需要に回復の兆しが見られたことなどから、売上高、利益ともに前年同期を上回りました。

貢献するSDGs^{※2}



電子材料

売上高

65億32百万円(前年同期比16.9%増)

営業利益

14億92百万円(前年同期比94.6%増)

半導体やディスプレイの製造プロセス向けに、当社が長年培ってきた蒸留技術、品質管理技術等を駆使して製造された、不純物(異物や金属)の含有量が極めて少ない高純度溶剤等を販売しています。

当期の業績は、半導体やF P D (フラットパネルディスプレイ) 向けを中心に前年度からの好調な需要が継続し、また、高品質化へのニーズの高まりを受け価格の見直しを行ったことから、売上高、利益ともに前年同期を上回りました。

貢献するSDGs^{※2}



基礎化学品

売上高

255億96百万円(前年同期比60.7%増)

営業利益

36億53百万円(前年同期の19.0倍)

当社の基盤となる技術を用いて製造しており、塗料・インキ原料の溶剤、軟質塩ビ製品に使用される可塑性原料等が中心となる事業です。最終的には自動車、住宅、電化製品、食品包装等様々な産業に貢献しています。

当期の業績は、需給バランスのタイト化による海外市況の高騰に伴い輸出の採算性が大きく向上したことに加え、国内において価格の見直しを行ったことが寄与し、売上高、利益ともに前年同期を上回りました。

貢献するSDGs^{※2}



※1 当社グループでは、上記の3事業以外に「その他」がありますが、売上高構成率が1%とわずかであるため記載を省略しております。上記の3事業における「営業利益」の算出に当たっては、全社に共通する管理費用等を配分しておりません。

※2 持続可能な開発目標。2015年9月の国連サミットで採択された2030年までの国際目標で、17のゴール・169のターゲットから構成。

サステナブル経営

当社は、これまで「化学の力」で環境や人々の暮らしに役立つ製品を提供し、社会課題の解決に貢献してきました。そしてこれからも、事業を通じ、「安心・安全・信頼」を基盤として、「環境に優しい社会」、「人々の豊かな暮らし」の実現に向けた価値を提供し、持続可能な社会に貢献していきたいと考えています。

社会とともに持続的な成長を実現していくために、ステークホルダーの皆様との「7つの約束(次頁参照)」に誠実に取り組み続けることで、当社は「サステナブル経営」を推し進めていきます。



当社初の統合報告書を発行

2021年7月30日に当社初の統合報告書である「KH Neochem Report 2021～私たちが創る、サステナブルな未来。～」を発行しました。

本報告書は、昨年までの「コーポレートレポート」をベースに財務情報・非財務情報の充実を図り、当社グループの全体像を一元的にご理解いただける「統合報告書」として新たに編集したものです。特に、非財務情報については、今回、当社としての「価値創造ストーリー」をお示ししました。詳細は当社ホームページをご覧ください。



「7つの約束」に誠実に取り組み、サステナブル経営を推進

当社は、サステナブル経営において2つの視点が重要だと考えます。第一に持続可能な社会に当社が事業で貢献すること、第二にその事業活動を通じて当社自身が持続的に企業価値を高めていくことです。

これまで事業を通じ、環境・社会への貢献や、レスポンシブル・ケア、コーポレート・ガバナンスなどの取り組みに注力してきましたが、今後も、サステナブル経営をより確実に実践していく為に、ステークホルダーの皆様との「7つの約束」を定めました。当社は、この「7つの約束」に誠実に取り組み続けることで、「サステナブル経営」を推し進めていきます。

直近の取り組み事例の中から関連する具体例をご紹介します。



新たなガスタービン自家発電設備が稼働開始 ～千葉工場～

千葉工場では、2021年3月より新たなガスタービン自家発電設備が稼働しました。新設備への切り替えに伴い燃料の見直しなども行い、これまでの自家発電設備に比べ、千葉工場全体のCO₂排出量の15%を削減できる見込みであるなど、環境負荷低減を実現しました。

これからも当社は環境への負荷低減を意識した事業活動を行ってまいります。



新品質管理棟およびオフィスの建設に着工 ～四日市工場～

当社は、半導体製造に欠かせない高純度溶剤を提供し、高度情報化社会の進展に貢献しています。半導体は微細化が進んでおり、当社の高純度溶剤にも極めて微細な精度での品質管理が要求されています。高水準のクリーンルームを完備した新しい品質管理棟を建設し、品質管理機能を一層強化するとともに、従業員の執務スペースを併設し、多様な人財がいきいきと働く環境を提供してまいります。(2022年3月完成予定)

7つの約束

- 社会課題解決に貢献する事業を展開すること
- 環境への負荷低減を意識した事業活動を行うこと
- 安全・安定操作を通じた信頼の確保に努めること
- 高い倫理観を持った透明性ある経営を実践すること
- 多様な人財がいきいきと働くことのできる環境を提供すること
- 責任あるサプライチェーンマネジメントを推進すること
- 「稼ぐ力」を強化すること

環境に
優しい
社会

人々の
豊かな
暮らし

安心
安全
信頼

四日市工場での総合防災訓練実施



四日市工場午起製造所にて、四日市中消防署のご協力の下、プラント内での漏えい、火災発生を想定した総合防災訓練を行いました。

今回の訓練は、タンクの払い出し配管から漏えいした危険物が静電気によって引火し火災に発展した状況を想定して行われました。訓練後は、各隊(各班)の行動の中で決められた項目に対し、適切な行動が遂行されたか検証することで、より一層の理解を深めました。

当社は、今後も安全・安定操作を第一に心掛け、皆様から信頼される企業であり続けるよう努めてまいります。

アスリート支援～ショートトラック・スピードスケート 菊池萌水選手～

当社はショートトラック・スピードスケートの菊池萌水選手と所属契約を締結し、2022年北京五輪でのメダル獲得という目標を全力でサポートしています。

菊池選手はアスリート活動と学業を両立し、今年3月に早稲田大学大学院を修了しました。現在は、日々トレーニングに励んでおり、9月以降に北京五輪に向けた国内選考会に挑みます。

世界の舞台へと挑戦する菊池選手の今後の活躍にご期待ください。



PHOTO : Aflo Sport